

自然がはぐくみ、人の和が育てる……………木のぬくもりあふれる、堅実な暮らし。

令和5年度

いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

WOODY STEADY LIFE2024

木の家で暮らそう。

四季ごとに変わる影の角度、季節の香り。
五感が喜ぶ開放感は、木の家だからこそ味わい。
家族と共に成長する、木の家で暮らそう。

茨城県木材協同組合連合会

木の家で暮らそう。

地元の大工が地元の木で作る。

日本の「いい家」のつくりかた。

■地元の大工が地元の木で建てるという家になる、と言われます。

南北に長い日本は気象や地理条件が地域で異なり、その土地独自の材の選び方、組立方など長年積み重ねられた経験や工夫を取り入れる地元の大工こそが、長く住める家を建てられるからです。また、地域大工・工務店は完成後もきめ細かいアフターメンテナンスや修繕に対応します。地域には信頼関係に根ざした安心できる家づくりのシステムが構築されているのです。

■茨城県では家づくりの原点に戻り、地域が育んだ木材を利用し、現代のライフスタイルに合う木造住宅を適正な価格で提供するため、地域の「大工・工務店と建築設計事務所が連携・協力しながら、家づくりを通して建築主との信頼関係を育てていく、安心と信頼の地域ルール」「いばらき地域適合型木造住宅供給システム（自然が育み、人の和が育てる）」の確立を考えています。■関連事業者の連携、協力の下に提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を募集し、ここにまとめました。皆様の家づくりの検討の一助となれば幸いです。



● 既存庭のある家

岩瀬卓也建築設計事務所 + アトリエキラク(株)

01

● 逆川の家

coba設計 + 佐藤建築

02

● 焼杉の家

(有)宮本建築アトリエ + 坂場工務店

03

○ 八溝の家60阿見モデルハウス

(有)自然と住まい研究所

04

「いばらき適合型木造住宅」とは

06

【講評】

(一社)茨城県建築士会会長 柴 和伸

08

● ……令和5年度いばらき地域適合型住宅コンペ「最優秀」作品

● ……「優秀」作品

○ ……令和5年度いばらき地域適合型住宅コンペ応募作品

※応募作品ページ以外、および表紙に掲載された写真はすべて「最優秀賞」「既存庭のある家」のもので、

※受賞者の意向により「延床面積」「平面図」等の掲載がない作品もあります。ご了承ください。

※各作品の「坪単価」は税別価格です。

Concept

最優秀

既存庭のある家



リビングダイニングから、薪ストーブの奥が広々とした開口部が魅力的な玄関ポーチ。庭を愛し、庭と共に暮らす、原点回帰の暮らし方を実現する住まい。



玄関ポーチを外から、職人技術が光る地域材を使用した開口部。



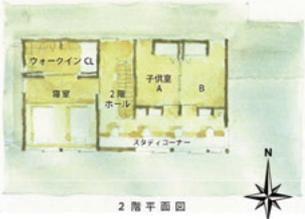
南側外観／重厚さと軽やかさを併せ持つ土庇空間。

岩瀬卓也建築設計事務所＋アトリエキラク(株)

「家づくりは木のリレー」――。懐かしくも新しい木の家と庭への回帰。

■敷地に隣接する建主の生の家の庭と、作庭家の手によって今回、新たに生まれた庭。新旧の緑へのアプローチとして機能する居心地のよい空間で生活に憩いを持たせる。性能面でも高い断熱性を保持しつつ、深い軒と庭の木陰との相乗効果で、夏でも自然の涼風が届く。南向きのキッチンやゆとり家事室、回遊性のある間取りで美しさと機能性を両立する住まいとなった。■「建主のお子さん(当時小三)が、『木の家を創ることは木を育てた人、家づくりに関わる人が繋ぐリレー。パトンを受け取った自分が次に繋ぐために、将来は設計士になりたい』という

延床面積(坪)：130.83㎡(39.49坪)



2階平面図



優
秀

逆川（さかさがわ）の家



軒下テラスへとつながる二階部分。視覚的な広がりだけでなく、採光や通風性にも有効な広い開口部。季節の移ろいを五感で感じる生活が実現する。



傾斜を活かした計画。左官壁と八溝杉の調和が印象的。



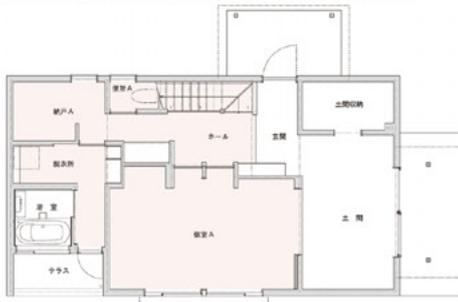
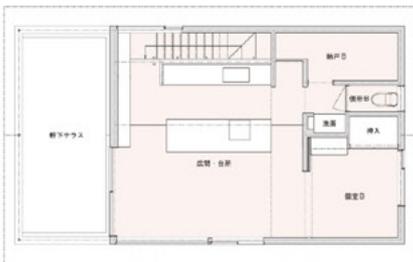
軒下テラスの垂木の美しさは室内外で楽しめる。

coba 設計 + 佐藤建築

自然美と人の手による造作美の融合。
ゆとりある、等身大の暮らしが可能な家。



延床面積(坪)：117.3㎡(35.41坪)



■西側に自然豊かな逆川緑地が南北に広がる敷地。この美しい風景と呼応する切妻屋根が見事な佇まい。東西4mの傾斜に対し矩形平面とすることで接地面を小さくし、経済的かつ強固なRCの基礎の上に、木造二階建てを実現。一階に玄関、寝室、水廻り、納戸という生活を支える部分をまとめ、東の庭とつながる土間を配置。二階はキッチンテーブルを中心に広間、客間を配置。西側の逆川緑地に面する軒下テラスが、自然と融合した暮らしのメインステージとなる。土地の傾斜を有効に活かし、自然を感じながら暮らせる家が完成した。■「県産材の八溝杉を、柱や梁などの構造材として積極的に活用。切妻屋根は大工による手刻み加工。美しい垂木は化粧材として現しの仕上げにし、自然の美しさと、人の手による造作の美しさを同時に味わえる空間に。外壁も八溝杉を縦張りで利用し、かき落としの左官壁と融合。床材、階段枠材、窓枠、手すりにも杉を利用し、統一感のある風合いに仕上げました。」

優
秀

焼杉の家



ホールからダイニングキッチンを臨む。リビング、ダイニングキッチンの天井は県産材の杉桐縁を目透かし張りで仕上げ。外観との調和をめざし、外壁下地で使用する胴縁をインテリアの主役に。



リビングからダイニングキッチン。空間のひろがり強調する杉天井。



南側外観。経年変化が楽しめる焼杉をふんだんに採用。



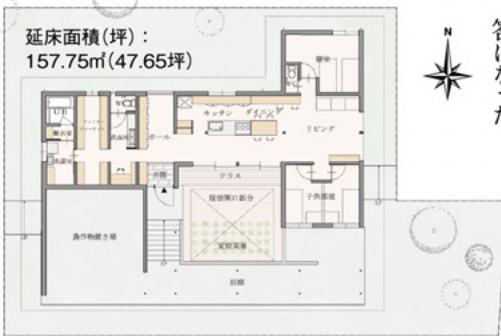
日常に溶け込む回廊。

土地の記憶と共に生きる。経年と自然を敬い、風合いを愉しむ住まい。

(有)宮本建築アトリエ + 坂場工務店

■美しい経年変化を、家族の成長・変化と共に楽しむ家を目指した。外部の焼杉は炭化層がところどころ剥がれ、元の杉材の表情を覗かせる。無塗装の垂木・梁は時を経てシルバーグレーの美しい色合いに変化する。経年変化する素材をあえて選択することで、ネガティブな劣化ではなくポジティブな変化、進化を見せる家づくりを目指した。■東西側を谷に挟まれた、台地の先端近くの自然豊かな立地。緩い傾斜地なため建築にあたり造成が必要だったが、人の手で土地の形状を大きく変えることに抵抗があり、傾斜地で最も影響の少ない高さをフロアラインに設定し、土を削る

ポリウムを最小限に抑えるよう努めた。■回廊、アプローチから階段をあげり玄関にアクセスする動線が、この傾斜地で元来幾度も繰り返されてきた「登り降り」を再現させる。傾斜をなぞるように切妻屋根を大きく架けた、台地がそのまま持ち上がったような佇まいを意図した。必要以上の手を入れない、経年変化を楽しむ家は、暮らしと自然の融合の、ひとつの回答になった。



延床面積(坪)：
157.75㎡(47.65坪)

八溝の家60 阿見モデルハウス (有)自然と住まい研究所

60年後の、暮らしへ

■持続可能性や循環が求められるこれからの家づくりには60年スパンで捉える必要があると考えた。植林から間伐、伐採、製材、材料となるまで60年。家を建てて子を産み育て、子が巣立ち、終の棲家となるまで60年。約30年と言われる日本の住宅寿命の倍の時間をテーマにこだわった。■小さくても豊かに、シンプルで飽きの来ないデザインで、コンパクトでも豊かに暮らせる空間を実現。回遊動線を考え、将来的に二階だけで完結する間取りに。年月とともに周辺環境に溶け込む付まいを求め、素材を丁寧に選択。60年後の暮らしと家族の姿、周辺環境の変化、進化をイメージし、詰め込みすぎない作りこみすぎない暮らし方を限定しない自由度の高い住まいとなった。



申請者：
自然と住まい研究所 0297-20-0155
延床面積(坪)：
93.38㎡(28.24坪)

茨城で暮らすなら、
「茨城らしい家」が最も適している。
「茨城らしい家」は、
茨城の職人が最もよく知っている。
応援します。
「茨城らしい、
茨城の家づくり」
設計業者や材木店、
大工・工務店など
「茨城の家づくり専門職」による
住まいづくりを応援しています。

茨城県木材協同組合連合会は、会員相互扶助の精神に基づき、協同して林産(木材、製材)に関する事業を行うために必要な施設をなし、会員の公正な経済活動の機会を確保し、もってその自主的な経済活動の促進と経済的地位の向上を図ることを目的としています。

茨城県木材協同組合連合会

いばらき地域適合型木造住宅コンペ【令和5年度 概要】

※詳細はホームページ(<https://www.wood-ibaraki.jp/>)より「いばらき地域適合型木造住宅コンペ実施要綱」をご確認ください。

内容は令和5年度のもので、次年度以降は改めてHPで告知いたします。

【趣旨】

地域が育んだ木材で 現代のライフスタイルに適した木の家を

地域の自然が育んだ木材を利用し、現代ライフスタイルにあった木造住宅を提供するために、地域の大工・工務店と建築設計事務所が連携、協力しながら、住まいづくりを通して建築主との信頼関係を育て、安心と信頼の住まいづくりの地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム(自然が育み、人の和が育てる)」を確立することを目的として、これら関連事業者の連携、協力のもとに提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を求めるものです。

【応募資格】

- 県内に事業所を有する「建築設計事務所」及び「工事施工者」との組み合わせとし、登録申込代表者は建築設計事務所とします。なお、同一事業者が「建築設計事務所」及び「工事施工者」を兼ねることも可能です。
- 同一組み合わせでの複数案の応募又は他の事業者との組み合わせによる重複応募も可能ですが、その際の申請書等は一つの応募毎にまとめてください。

【設計条件概要】

〈提案住宅〉在来木造住宅

- 住宅の一部に小規模な事務所、店舗等を兼ねるものも対象。
- 新築に限らず、設計条件等をすべて満たす増改築又はリフォーム工事も対象。

〈設計基準〉

- 地域材を構造材全数量の50%以上使用すること。
- 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適で安らぎのある住空間とすること(数量規定なし)。
- 住宅の長期の耐久性を確保し、地域の自然・景観・生活様式等と調和し、世代を超えて継承、持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品

- ① 県内の森林から生産された原木により製材されたもの ② 県内の製材事業所で製材されたもの

〈その他〉

- 県内で平成30年1月1日以降に施工したものであること。
- 作品を当コンペに応募することについて、建築主等の関係者の承諾を得ていること。
- 建築基準法その他の関係法令に適合するものであること。

基本仕様、部屋数等について要件があります。

詳細は、茨城県木材協同組合連合会ホームページ「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」実施要項をご覧ください。



【審査と表彰】

有識者により審査委員会を設置し、応募作品の中から優れたものを優秀作品等として選定します。

- **最優秀賞**：賞状及び副賞30万円
- **優秀賞**：賞状及び副賞10万円
- **リフォーム賞**：賞状及び副賞10万円

【応募手続き等】

① 応募期間：

令和5年9月11日(月)～11月6日(月)

② 応募申請書等：

茨城県木材協同組合連合会ホームページ
「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」をご覧ください。

【作品集作成による情報発信(公表)】

- 「いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集(本誌)」の作成
- 集客施設での情報発信イベント(作品のパネル展示会)の開催(コロナ感染拡大の状況を鑑み、開催方法が変わる場合があります。)大型商業施設等を活用した応募作品の展示等によるイベントを開催します。
- ホームページへの掲載…作品集の内容は、茨城県木材協同組合連合会のホームページに掲載します。

登録申込
及び
募集先

〒319-2205 常陸大宮市宮の郷2153-38

茨城県木材協同組合連合会 茨城県木材協同組合連合会 検索

TEL : 0294-33-5121 / FAX : 0294-33-5191

※登録申込については、期間内に直接持参していただくか、郵送(当日消印有効)してください。



「いばらき地域適合型木造住宅」とは

気候風土を踏まえ、 地域材を活用してつくる家。

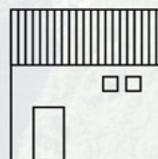
茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ、地域材^(※)を活用し、かつ、ユーザーにとって充実感のある住宅とし、これからの木造住宅の指針となるべきコンセプトを明確にした住まい。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品。

①県内の森林から生産された原木により製材されたもの。②県内の製材事業所で製材されたもの。

【主な設計基準】

- (1)地域材を構造材全数量の50%以上使用していること。
- (2)内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある住空間とすること。
- (3)住宅の長期の耐久性を確保し、また、地域の自然、景観、生活様式等と調和し、世代を超えて継承・持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。



なぜ地域材が推奨されるのか

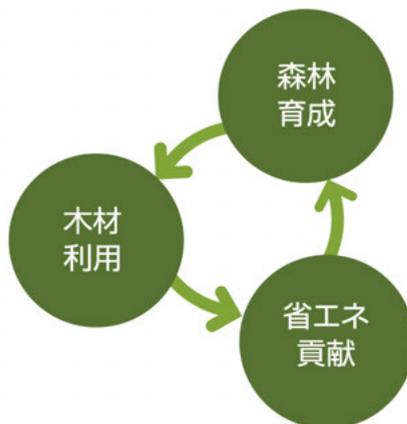


地域の森林の活性化を図り、
地球にやさしい家づくりができる。

■森林は、化石燃料などの代替エネルギーとして注目されています。成長期に高レベルの二酸化酸素削減効果を発揮し、地球温暖化の防止策としても役立ちます。■地域の森林資源を積極的に活用し、同時に植林を進め、常にバランスのとれた循環を整え、資源を生み出しながら、地球環境保護に貢献する森林を育成できる。地域材を使用する意義はここにあります。

地球環境を守るサイクルとは

「森林育成」「木材利用」「省エネ貢献」。
次代につなぐ、大切なサイクル。



■森林を育成するためには、木材の利用を促進する必要があります。木材で建築資材を作ることは、他の原料よりも効率がよく、また余分なエネルギーがかかりません。冷暖房費の節約にもつながり、省エネへの貢献度も決して小さくありません。■家づくりに用いられた木材が、いずれ土をはじめとする自然に還り、また森林を育成していく…。自然の循環、持続可能なエネルギー確保のために、木を使って家を建てることは、非常に有用なのです。



ご存知ですか？ 地域の木材を使うメリット。

1 地域の風土に馴染みやすい…

地域材は腐りにくく、家が長持ちするといわれています。



日本人は古来から、「地元の木を使った木造住宅」で暮らしてきました。今で言う「地産地消」です。

木は、土地の気候風土、環境に適応しながら成長します。

つまり、その土地で成長する`抵抗力、をつけながら育つということ。

家づくりにその適応力を活かすことで、丈夫な家を作りだしているのです。

2 地域ごとの「つくり方」を熟知している…

その土地の家づくりに精通した、身近なプロがいます。

「その土地で育った木を使って、その土地の大工が建てる家が、最も丈夫で安心して暮らせる」。気候の変化や風の入り方、夏の暑さや冬の雪の量に対応する方法など、その土地の「家のあり方」を最もよく知るのが、その地域の大工です。色々なことを知り、教えてくれる身近なプロの知識を最大限に活かす家づくりはいかがですか。



3 身近な環境で生まれそだった材料をつかう…

材料の輸送にかかるコストを軽減できます。



建材を家づくりの現場に持ち込むための運搬距離とコストは比例します。

同時に、輸送過程でのCO2排出量は、地域材以外の外材を使う家づくりの数分の一に抑えられます。

お財布と環境への負荷が少なくなること。

地域材を使う家づくりの、大きなメリットのひとつです。

**環境に優しく、コストを抑えながら、丈夫で安心できる家を実現。
あなたの大切な家づくりをていねいに支える、地域材のご利用を推進しています。**

令和五年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」の審査を終えて

一般社団法人茨城県建築士会 会長 柴 和伸

令和五年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」には、建築設計事務所とそれぞれの製材所と高い技術を持つ大工さん、専門技術者の皆さんが協力し合い知恵を結集し、地域が育んだ木材を活用した作品のコンペでありましたが、六作品と応募作品の少なさには、審査会として応募内容検討の必要性を感じております。

竣工した住宅によるコンペは、今年十三回目を迎えて、設計者・施工者の経験と知恵を傾注し、六作品それぞれが敷地を有効に活かし、茨城の気候風土を踏まえながら地域材を用い、設計者・施工者がその地域での生活の経験や知恵と建築主の想いを注いで造られた住宅であり、木造住宅の素晴らしさを感じさせてくれました。

審査は、七名の審査委員それぞれが、応募作品の中から最優秀作品一点と、優秀作品二点の選出とし、審査委員の投票の結果、最優秀作品「既存庭のある家」

る家」、優秀作品「焼杉の家」、優秀作品「逆川の家」の三作品に決定いたしました。

選外となった応募作品にも、素晴らしい作品があり、応募された方々には審査委員長として感謝申し上げますと共に、次の機会にはさらに二層の力作の応募をご期待申し上げます。

最優秀賞「既存庭のある家」

深い軒により、日射を遮りやわらかな光が差し込み、庭の樹木をいつそう引き立たせています。夏場には、既存庭そして新規庭からの涼風を呼び込み、居心地の良い空間を創り出しています。子どもさんの文章に、「家づくりは木のりレー、木のおいがほくたちをつんだ」とあります。変化のある庭の表情を楽しみながら、現代のライフスタイルとも調和し、庭との相乗効果を生み出しています。

また、地域材をふんだんに用いた内装によって、木のぬくもりと共に「木のりレー」を感じながら長く親しまれる住宅となっています。



優秀賞「焼杉の家」

傾斜のある敷地を取り込みながら、土地の記憶を建物に写し取り、周囲の環境に調和した建物となっています。焼杉という大胆な手法により、建物の耐久性を高めながら建主と家との距離を近づけ、家への愛着とこれからの日常をも想定した計画としていま

家づくりは木のリレー「だ、い、じ、ょう、ぶ、ゆ、つ、く、り、の、ぼ、つ、て、お、い、で。」と、う、り、よ、う、さ、ん、の、声、で、ぼ、く、は、は、し、こ、を、に、ぎ、る、手、に、力、を、こ、め、た。そ、し、て、「だ、ん、ず、つ、の、ぼ、つ、て、い、け、ば、こ、わ、く、な、い、よ」と、そ、つ、と、下、に、い、る、弟、に、声、を、か、け、た。二、か、い、ま、で、の、び、た、は、し、こ、を、の、ぼ、つ、て、い、く、と、上、と、う、式、の、つ、る、と、か、め、の、絵、が、か、か、れ、て、い、る、か、ざ、り、が、近、く、に、見、え、た。板、の、上、に、す、わ、る、と、と、な、り、の、じ、い、じ、と、ば、あ、ば、の、家、が、よ、く、見、え、る。あ、せ、を、か、い、た、け、れ、ど、庭、か、ら、の、風、で、気、持、ち、が、い、い。「お、ふ、ろ、の、お、い、が、す、る」と、弟、が、お、父、さ、ん、に、言、っ、た。木、の、お、い、が、ぼ、く、ち、ち、を、つ、ん、だ。そ、こ、に、は、「ぼ、く、の、木」も、ク、レ、ン、で、二、か、い、に、運、ば、れ、て、い、た、の、だ。

き、よ、年、の、秋、せ、つ、計、事、む、所、の、人、た、ち、と、い、つ、し、よ、に、ぼ、く、の、住、ん、で、い、る、近、く、の、山、へ、木、の、ば、つ、さ、い、体、験、に、行、っ、た。山、に、の、ぼ、る、間、に、木、を、育、て、て、い、る、人、の、あ、ん、内、で、森、林、を、長、い、年、月、を、か、け、て、育、て、て、い、る、こ、と、や、計、画、的、に、切、り、出、す、こ、と、を、そ、れ、を、材、料、と、し、て、使、う、こ、と、な、ど、い、ろ、い、ろ、な、こ、と、を、教、え、て、ま、ら、つ、た。そ、し、て、ぼ、く、は、じ、ゆ、れ、い、百、三、年、に、な、る、ヒ、ノ、キ、に、出、会、っ、た。手、を、広、げ、て、の、ぼ、し、て、お、も、か、か、え、き、れ、な、い、太、さ、と、空、に、え、ん、と、つ、み、た、い、に、ま、つ、す、ぐ、の、び、る、ヒ、ノ、キ。お、父、さ、ん、が、チ、ェ、ン、ソ、ー、の、ひ、も、を、プ、リ、ン、と、ひ、い、て、大、き、な、音、を、立、て、な、が、ら、切、っ、て、い、っ、た。ゆ、つ、く、り、木、が、な、な、め、に、な、っ、て、ス、ツ、シ、ン、と、地、響、き、が、し、た。弟、と、切、り、か、ぶ、の、上、に、立、っ、た、時、お、ふ、ろ、の、お、い、が、し、た。「木、は、生、き、て、い、る、ん、だ、よ。そ、れ、を、大、事、に、使、わ、せ、て、ま、ら、お、う、ね」と、お、母、さ、ん、が、言、っ、た。それ、か、ら、二、か、月、し、て、家、ぞ、く、で、せ、い、材、所、に、行、っ、た。お、父、さ、ん、が、切、っ、た、ヒ、ノ、キ、が、丸、太、に、な、っ、て、い、た。せ、つ、計、し、の、※※※、さ、ん、が、「こ、の、木、で、家、ぞ、く、が、本、を、読、ん、だ、り、勉、強、し、た、り、で、き、る、つ、く、え、を、つ、く、る、よ」と、話、し、て、く、れ、た。そ、し、て、見、た、こ、も、な、い、大、き、な、の、こ、ぎ、り、の、き、か、い、で、ぼ、く、ち、ち、の、木、が、せ、い、材、さ、れ、る、と、こ、ろ、を、見、た。「ど、ん、な、つ、く、え、に、な、る、ん、だ、ら、う」と、ワ、ク、ワ、ク、し、て、き、た。

そ、の、時、の、お、い、「ぼ、く、の、木」だ。親、方、の、合、図、で、ぼ、く、ち、ち、は、神、様、に、あ、い、さ、つ、を、し、た。

ぼ、く、の、家、は、木、の、家、だ。百、年、以、上、前、に、木、を、育、て、た、人、木、を、切、つ、て、運、ぶ、人、が、一、本、の、木、を、リ、レ、ー、し、て、い、る。こ、ん、ど、は、ぼ、く、の、番、だ。ぼ、く、に、で、き、る、こ、と、は、何、だ、ら、う。こ、の、前、自、然、探、検、サ、ー、クル、で、ホ、タル、を、見、た。豊、か、な、森、か、ら、流、れ、る、さ、れ、い、な、川、に、ホ、タル、が、住、ん、で、い、る。ぼ、く、の、住、ん、で、い、る、常、陸、太、田、市、に、は、豊、か、な、自、然、が、す、ぐ、近、く、に、あ、る。森、を、よ、く、知、り、木、を、大、切、に、使、う、こ、と、が、ぼ、く、の、役、割、だ、と、思、う。

ぼ、く、の、夢、は、せ、つ、計、し、た。ヒ、ノ、キ、の、つ、く、え、で、た、く、さ、ん、勉、強、を、し、て、木、の、家、を、つ、く、つ、て、み、た、い。そ、し、て、木、の、お、い、の、す、る、町、を、つ、く、り、た、い。

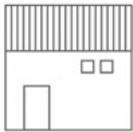


優秀賞「逆川の家」

す。また、内装には県産材を用い、そして省エネルギーな室内環境など、新しい住空間を提案しています。無塗装の梁や垂木、外装材への焼杉材が時間と共に変化し、経年による劣化も楽しみながら育てていく住宅を創り出しています。

自然豊かな逆川緑地を背景に、落ち着いた切妻の佇まいが、美しい自然の緑影に緩和しています。また、傾斜を生かした効率の良いプランにより、コンパクトに納められた諸室のつながりを、より感じさせる計画となっています。八溝杉による構造材、造作材は、杉の香りを視覚的にも感じさせるような空間を生み出し、かき落しの素朴な外壁との調和を生み出しています。二階に配置されたキッチンテーブルを備えた広間は、軒下テラスと共に日常の中に逆川緑地の自然を取り込んだ住宅となっています。

- 審査委員長
一般社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和 伸
- 委員
一般社団法人
茨城県建築士事務所協会 会長
舟 幡 健
- 一般社団法人
茨城県建設業協会 建築委員長
沢 畑 正 剛
- 茨城大学工学部
都市システム工学科 教授
熊 澤 貴 之
- 茨城県木材協同組合連合会
木造建築部会長
浅 川 清 司
- 茨城県農林水産部
次長 兼 林政課 課長
磯 邊 晋 吾
- 茨城県土木部都市局
住宅課 課長
朝 日 光 昭



令和5年度

いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

この冊子は「いばらき地域適合型木造住宅」の基本的な考え方を啓発普及するために作成されたものです。掲載される記事内容はすべて各チームからの提出書類を要約したもので、「宣伝広告」を意図したものではありません。
また当連合会では、これら各グループへの仲介斡旋は一切行っておりません。



主催／茨城県木材協同組合連合会

協力／茨城県

後援／(一社)茨城県建築士事務所協会・(一社)茨城県建設業協会

〈お問合せ先〉

茨城県木材協同組合連合会

TEL.0294-33-5121 (代) FAX.0294-33-5191

〈e-mail〉mokuren@atlas.plala.or.jp

茨城県土木部都市局住宅課

TEL.029-301-4759 FAX.029-301-4779